

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 36	福山市立 神辺西中 学校
最終更新日		2026年(令和 8 年) 4月 17日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	○自己を認識する力 自己選択できる力 ○表現力 ○粘り強くやり切る力 ○挑戦し続ける力 ○コラボレーション力
・学力調査結果を分析して具体的な改善策を 確認して成果につなげる。	・福山市学力調査において児童・生徒の つまずきを把握し、基礎の徹底を図って いる。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子
・メディアコントロールデイの推進	・小中ともに、自己指導力の向上に努めている。	中学校区として 統一した取組等	・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有(「書くこと」を中心とした「考える」授業づくり) ・児童生徒による児童会活動生徒会活動の充実 ・神辺西中学校区における「資質・能力」にもとづく個に応じた指導の実施
・長期欠席者の減少に向けた取り組みの推進	・スポーツテストにおいて、県平均を下 回っている項目が多数ある。		

III 自 校

学校教育目標	育成する 資質・能力	○自己を認識する力 自己選択できる力 ○表現力 ○粘り強くやり切る力 ○挑戦し続ける力 ○コラボレーション力
感動・目標・全力	めざす こども像	・自らのよさを理解し夢や目標を持ち、自ら考え、選択し、自らの意志で 決めることができています。 ・自らのことや自らの意見などを、相手や場面に応じて、言葉の使い方や 表現の仕方などを工夫しながら自信をもって伝えることができています。 ・困難なことにも自ら友だちと協力し合い、競い合いながら、あきらめる ことなく何度も取り組んでいる。 ・様々なことに対して、変化や多様性を理解し、しなやかに対応している。
現 状	テーマ	「読む」⇔「書く」⇔「伝える」を基本とした授業づくり
＜児童生徒＞	研究	・「書く」ために必要な読む力と、さらに発展した伝える力も付ける授業 ・中学校区9年間の繋がりを意識した、「書くこと」を基本とした授業 ・帯学習をいれた基礎学力の定着
・学力調査等において本校生徒の現状について分析した結果、「文章や情報を正確に読み取ること」 に課題がある。令和 7 年度全国学力学習状況調査において、40%未満の生徒の割合が国語は 35.2%、数学が59.8%と40%未満の割合が非常に高いことがわかる。また、標準学力調査におい ても40%未満の割合が中1国語は18.2%、数学が26.3%であった。同じく中2国語は10.3%、 中2数学が38.0%であった。	内容等	
・長欠不登校生徒(傾向を含む)および教育上特別の配慮が必要な生徒が昨年度は改善傾向が見られ た。しかし、生徒一人ひとりが抱えている状況も多様化・複雑化しており、家庭、SC、SSW、関係 機関等と個々に応じた連携を行い継続支援中である。	めざす授業の姿	① 問題文の問いを正しく読みとる力を育成する授業 (全ての学習の基盤となる資質・能力の定着を図る) ② 自分の考えを「書く」授業 (書くことにより、自分の考えの再構築を図る) ③ 自分の知識・考えを、他の生徒に伝える授業 (習得した知識の定着・整理を図る)
＜授業＞		
・各教科の特性に応じた、「読む・書く・伝える」を意識した授業改善に努め、生徒自身が、課題を 適切に読み取り、自分の考えを書き、伝えることを通して、「本当のわかる」につなげていきたい。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺西中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	「読む」⇔「書く」⇔「伝える」 を基本とした授業づくり	★	継続	生徒が「読む」「書く」「伝える」を実感できる授業づくり。	①次の3つのことを、教育活動の中で取り組む。 ・HR学習 ・課題とリンクした小テストの実施 ・校長講話を要約する活動の実施。 ②小中9年間を意識した、「書くこと」がさらに充実する校内研修・校区研修を行う。 ③生徒への支援として授業内容の視覚化を行う。 ④調査問題を活用・分析して「問いを読む」校内研修の実施。	○標準学力調査において、1回目から2回目にかけて+5%にする。 ○調査における1回目から2回目にかけて無答率を全教科5%以内に改善する。									
1	すべての生徒に居場所のある学校にする。		新規	生徒にとって学校が居場所であると感じる取り組みを実施する。	○教育相談・サポート会議の充実を図る。組織的、計画的な取組みを展開し、ほっとルームの運営見直し、SC・SSWの効果的に活用する。HR時間を活用し、生徒との対話の充実を図る。 ○「ここタン」を活用し、生徒の心の状態を把握する。 ○ハートフルプロジェクトとして外部講師による講演や、生徒面談を通して自己肯定感の向上や自他を大切に思う意識を高めるために行く。	○「学級・教師との関係」に係る生徒の肯定的評価75%以上にする。 ○生徒アンケートにおける「私にはよいところがある」80%以上、「相談できる先生がいる」85%以上にする。 ○不登校生徒数を、40名以下にする。									

7	保護者の期待に 応え、信頼され る学校にする。		継 続	地域・保護者に 対し積極的に情 報を公開する。	○各種たよりの発行や 保護者・役員へのメ ール等での連絡、HP の充実による情報発 信を積極的に行う。	○各種通信を定期的 に発行する。タイム リーなメール配信 を行う。HPを定期 的に更新する。									
					○学期毎に保護者アン ケートやいじめ防止 アンケートを実施し、 保護者の学校満足度 を把握する。	○保護者アンケートに より、保護者の学校 満足度を90%以上 にする。									
6	働き方改革に よる教職員の 健康増進と教 育の質向上	★	継 続	ワークライフバラ ンスを意識し、 時間外在校等 時間の上限を超 えない勤務を推 進する。	○早めのスケジュール提 示による計画的な職務 の遂行を心がける。	○時間外在校等時 間「月45時間以 内、年間360時間 以内」の達成率を 50%以上にする。									
					○毎週の定時退校日を 確実に実施する。										